

終末期医療に関する事前指示書

※ 終末期とは「生命維持処置を行わなければ、比較的短期間で死に至るであろう、不治で回復不能の状態」のことです。

作成日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

作成者 _____

- 項目ごとにあなたの意思に沿った内容を書いておきましょう。なお、分からないことや決められないことは書かなくても構いません。
- 書いた内容はいつでも修正・撤回できます。また、定期的に見直すことも重要です。変更したときは、その日付を必ず記入しておきましょう。
- 作成するときは、医師やご家族、親しい人と相談のうえで行うとともに、この書面の存在を、医師やご家族、親しい人と共有しておきましょう。

1 基本的な希望（希望の選択肢にチェック☑してください。）

(1) 痛みなど

- できるだけ抑えてほしい（ 必要なら鎮静剤を使ってもよい）
- 自然のままでいたい
- その他（ _____ ）

(2) 終末期を迎える場所

- 病院 自宅 施設 病状に応じて
- その他（ _____ ）

(3) 上記以外の基本的な希望（自由にご記入ください。）

--

2 終末期になったときの希望（希望の選択肢にチェック☑してください。）

(1) 心臓マッサージなどの心肺蘇生法

- 希望する 希望しない その他（ _____ ）

(2) 延命のための人工呼吸器

- 希望する 希望しない その他（ _____ ）

(3) 抗生物質の強力な使用

- 希望する 希望しない その他（ _____ ）

(4) 胃ろうによる栄養補給

- 希望する 希望しない その他（ _____ ）

(5) 鼻チューブによる栄養補給

- 希望する 希望しない その他（ _____ ）

(6) 点滴による水分の補給

- 希望する 希望しない その他（ _____ ）

(7) 上記以外の希望（自由にご記入ください。）

--

3 あなたが希望する医療について判断できなくなったとき、医師が相談すべき人

氏名		あなたとの 関係	
連絡先			

※ この「終末期医療に関する事前指示書」は、国立長寿医療研究センターの「私の医療に対する希望（終末期になったとき）」を参考に作成したものです。

	説明
1 基本的な希望	<p>(1) 痛みなど</p> <ul style="list-style-type: none"> 強い鎮痛薬（麻薬系鎮痛薬等）で痛みを抑えると、意識が低下する場合があります。 鎮静剤を使うと、意識は低下するが、副作用で呼吸が抑えられることが多くあります。 「自然のままでいたい」とは、できるだけ自然な状態で死を迎えたい、したがって、ある程度痛みがあっても、強い薬で意識レベルを低下させることは避けてください、という希望です。
2 終末期になったときの希望	<p>(1) 心臓マッサージなどの心肺蘇生法</p> <ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生とは、死が迫ったときに行われる、心臓マッサージ、気管挿管、気管切開、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与等の医療行為をいいます。 心臓マッサージをすると、心臓が一時的に動き出すことがあります。 気管挿管の場合、必ずしもすぐに人工呼吸器を装着するわけではなく、多くの場合、手動のバック（アンビューバック）を連結して医療スタッフが呼吸補助をします。この行為により、一時的に呼吸が戻る場合があります。
	<p>(2) 延命のための人工呼吸器</p> <ul style="list-style-type: none"> 終末期の疾患の違いにより、装着後、死亡するまでの期間は異なります。
	<p>(3) 抗生物質の強力な使用</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症の合併があり、通常の抗生剤治療で改善しない場合、さらに強力に抗生物質を使用するかどうかの希望です。
	<p>(4) 胃ろうによる栄養補給</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に内視鏡と若干の器具を用い、局所麻酔下を開腹することなく、栄養補給のための胃ろうを作る手術（経皮内視鏡的胃ろう造設術）を受ける必要があります。鼻チューブよりも一般的に管理しやすい方法です。
	<p>(5) 鼻チューブによる栄養補給</p> <ul style="list-style-type: none"> 胃ろうや鼻チューブでは、常に栄養補給ができます。しかし、終末期の状態では、供給された栄養を十分に体内に取り入れることができないため、徐々に低栄養になります。また、栄養剤が食道から口の中に逆流して肺炎を合併することがあります。
	<p>(6) 点滴による水分の補給</p> <ul style="list-style-type: none"> すぐに重度の脱水にならないようにできます。栄養はほとんどなく、次第に低栄養が進行します。 このほかに、太い静脈に点滴チューブを通し、より多くの栄養を持続的に入れる高カロリー輸液（IVH）という方法がありますが、胃ろう・鼻チューブでの栄養補給のときと同様、終末期では徐々に低栄養になります。また、点滴チューブを介した感染症を起こすことがあります。

※ 医療行為について分からないことは、医師に相談するようにしてください。